

## 育種のねたを探し求める謎の研究室

### 1. まずは、中国農業試験場について

中国農業試験場は広島県の福山市にあります。福山といってもピンと来ない人のほうが多いでしょうが、瀬戸内海の真ん中あたりです。周辺は開発が進み、まとまった圃場としては農試のが一番大きくなっています。圃場の中には一般道も通り、そのためか、困いらしきものはありません。夕方には犬の散歩でにぎわいます。夏休みには子供がざりがにをとり、桜のころには花見客が寄って（酔って？）きます。圃場だからいいやとノーヘルでカブにまたがっていると、お巡りさんに怒られたりします。何とも開放的なところですよ。

試験場の大きなテーマは中山間地の農業振興です。高齢化問題や、狭い圃場など、中山間地の農業は日本の農業の一典型だと思います。ただ私個人としては、関連づけて研究していくのは難しいなあ、と感じています。理解不足だということもありますし、圃場が平場にあるということもあります。

### 2. そして、育種素材研究室について

「育種素材研究室って、何を研究するところですか？」「育種の素材を見つけるところです。」いつもこう答えてしまっていますが、これでは答えになってませんね。まだ出来て間もないこともあり、海のものとも山のものともつかない謎の研究室状態です。相手にする作物も、稲に始まり、小麦、大豆、胡麻など多種多様で万屋みたいです。

私は種の落ちない胡麻を探すという研究をしています。胡麻は成熟すると種を撒き散らすという作物らしからぬ性質をもっています。これを直して、機械で刈ろうというのですが、雨に遭うと種が腐ってしまい日本では難しいようです。

最近アトピー性皮膚炎の子供が増えて問題になっています。わが研究室では患者さんとお医者さんに協力してもらって、アレルギーのでない米の開発を行っています。お米でアレルギーの出る患者さんにも、お米のおいしさを知ってもらえればいいなあ、と思います。

小麦では、蛋白質とうどんの製麺適性について研究しています。うどんにはオーストラリアのASWが最高とされていますが、うどんはやっぱり国産小麦だ、という時代を夢見しています。

根とのかかわりは、個人的にはつい最近です。熱帯豆科作物の耐乾性と根の形態を調べているのですが、なかなか思うようには進みません。

この10月から培養をやっている室長さんも来て、これからは手法においても幅が出てくることと思います。10年後研究室がどう変わっているか、ちょっと楽しみです。

育種素材は、育種のねたを見つけたり、作ったりするところだと考えています。うちで作ったねたが一つでも品種へとつながれば、素晴らしいことだと思います。